

種の貴重性	生息の特異性	生息の多少傾向
狩猟獣	平地～山麓森林	少
狩猟獣 狩猟獣(オス), 保護獣(メス)	丘陵～山麓	少, 減少 少
狩猟獣	山地帯	少
天然記念物 保護獣	ブナ, ナラ帯大径木 山麓地帯 山地帯(急峻地を含む)	少, 減少 少 少
特別天然記念物	山地帯～高山帯	少
保護獣	高山獣	中

[鳥類評価度]

鳥類の評価に当たっては、これを10段階に区分し、生息域の特性を勘案のうえ、評価度を設定した。すなわち、高山帯のように限られた地域において繁殖する種の生息地域や、イヌワシのように生態系の頂点に位置するワシタカ類の生息地(繁殖地と重要なハンティングエリア)は最も高く評価した。次いで亜高山帯や山地帯の良好な森林に限って生息する種のうち、生息範囲の狭い種の生息地域を高く評価し、これより範囲の広い生息地域を有する種の生息地域を続けて評価した。また県内の農耕地帯に存在する湖沼のなかには伊豆沼のようにハクチョウなどガン・カモ・ハクチョウ類の集団渡来地となっている地域があるのでこれらにも高い評価を与えた。

表

主 な 生 息 域
都市地域
農耕地の多い村落地帯
森林の多い村落地帯
灌木林の多い丘陵地帯